

第1期 中地区社協活動計画

平成29年度～33年度

みんなに役割と居場所がある 多世代共生のまちづくり

ずっと地域で暮らしき続けられるように、「中に住んで良かった」と思えるように、中地区社協（地域全員）で取り組む「ふくしのまちづくり」計画書です。



中地区社協活動計画について

どのような地域にしたいのかを決めるのも、地域に立ちはだかる課題が何かに気づくのも私たち住民自身です。法律や制度では対応できない地域課題を地域の“きずな”や“ささえあい”を基に解決していくためには、中・長期的な取り組みが必要となっています。

そこで、中地区の現状や課題を話し合い、誰もが安心して暮らし続けることが出来る地域にするため、中地区社協（地域住民）としての取り組みと、進め方をまとめたものがこの計画です。

- 計画づくり**
 - ・ふくしのまちづくりミーティング（平成27年3月）を開催
 - ・ふくし学習会（平成28年11月・12月）を2回にわたり開催
- 事業開始**
 - ・第1期活動計画（平成29年～平成33年）に基づいて、平成29年度より事業取り組み開始
 - ・第1期は「役割」「居場所」「大家族」をキーワードに事業実施
- 事業継続**
 - ・年度毎に活動の振り返りと改善を実施。次期活動計画策定へ
 - ・「大家族のように助け合い、安心して暮らせる中地区」を実現!!



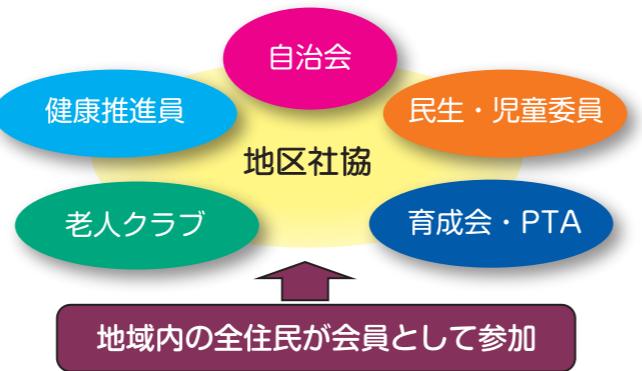
中地区ふくし学習会の様子



中地区社協の役割

- | | | |
|--------------|------------|-------------|
| 地域課題の発見 | 課題の共有、話し合い | 福祉活動の企画、実施 |
| 関係機関、団体の連絡調整 | 住民への情報提供 | 地域内の福祉意識の啓発 |

中地区社協組織図



企画・編集・発行 中地区社会福祉協議会
問合せ先 小山市社会福祉協議会

〒323-0827 小山市神鳥谷931-3
TEL:0285-22-9501 FAX:0285-22-2940

取り組み内容と進め方

みんなに役割と居場所がある多世代共生のまちづくり

～「無駄」と「わざらわしさ」のある暮らし～

「家族」には役割があり、居場所がある。ふれあいがあり、絆がある。

中地区を一つの大家族にみたて、住民それぞれが自分のできることをする。

役割ができ、つながりが生まれれば居場所ができる。そうやって、昔みたいにみんなで助け合って生きていく。

手間ひまがかかり、わざらわしい暮らしだけど、さまざまな関係性があることは地域が「豊か」であるこの証でもある。

まちはいつも未完成。ならば、住民の言葉で語り継ぐことのできる(物語のある)まちづくりを目指そう。合言葉は「まあまあ」「ぼちぼち」「だいたい」

(I) 安心のための取り組み

「お互いさま」で支え合う

しくみをつくります。

具体的な取り組み

中地区に残る“世話焼き”“おすそわけ”等の助け合いの文化を将来に残し、誰もが自分の出来ることをして支え合える地域の仕組みをつくります。

《取組み例》

地域人材バンク、中地区世話焼き隊、おせっかいマップなど



取り組みのポイント
“好きなこと”、“得意なこと”
を地域貢献につなげます。

年次目標(5カ年)

1年目

- 課題、支援の希望調査
- 資源、人材の調査

2年目

- 実施方法の検討
- 事業実施説明、PR

3年目～5年目

- 協力者募集、支援受付
- 事業実施
- 振り返りと見直し

(II) 居場所創造事業

“集い”を生みだす

しくみをつくります。

具体的な取り組み

徒歩圏内で気軽に立ち寄り、参加できる場所やイベントを設定し、地域内のつながりや住民の居場所づくりに取り組みます。

《取組み例》

自治会カフェ、縁側カフェ、コミュニティショップ(食堂、駄菓子屋)など

地域で上がった課題・要望

- 集える場やイベントがない
→ 空き家活用でサロン等を開催
- 外出機会が減り孤立する
→ 自治会カフェ等の開催

事業の進め方

- 1 地域内の資源や取組みの調査を行います
- 2 事業内容や実施方法を検討します
- 3 協力者の募集と場所の確保をします
- 4 事業実施と振り返り



年次目標(5カ年)

1年目

- 地域内の資源や既存の取組みを調査

2年目

- 事業内容の決定
- 実施方法の検討

3年目

- 人材、資源確保
- 事業PR

4～5年目

- 事業実施
- 振り返りと見直し

取り組みのポイント

顔を見て、会話を楽しむだけでもOKです。井戸端会議でも立派な地域の居場所です。

(III) 「中」大家族ふれあい事業

“中地区”を知り、育てる

しくみをつくります。

具体的な取り組み

住民自身が中地区の“今”を知り、“未来”を語り合えるための情報提供やイベントの実施に取り組みます。

《取組み例》

地区社協だより、地域学習会、昔あそび交流会など

地域で上がった課題・要望

- 若い世代の減少
→ 多世代参加で地域力を向上
- 自治会、地域行事が維持できない
→ 中地区全体で事業に取り組む



取り組みのポイント

家族みんなが知っている、家族みんなで参加する「中」大家族の一員であると実感のもてる事業を企画していきます。